

# 令和3年度 病害虫防除技術情報 第2号

令和3年4月28日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

## ネギべと病の防除対策について

本年は3月から高温傾向にあり、白ネギではべと病の発生が平年より1ヶ月程度早く確認されています(図1)。気象庁の1か月予報(4/23発表)では、気温は平年並から平年より高く、降水量は平年並から平年より少ないと予想されています。今後の気象条件によっては、べと病の多発が懸念されますので、気象情報に注意し、べと病の発生状況に応じて防除を実施してください。

### 1. べと病発生状況

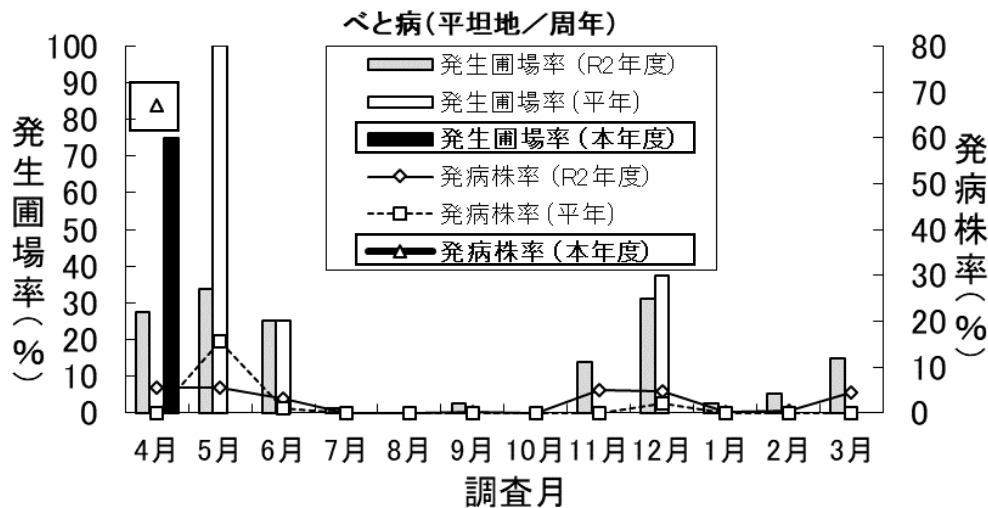


図1 べと病発生推移(平坦地)

### 2. 防除上注意すべき事項

- 1) 発生が認められていない圃場でも感染の可能性があり、発生に好適な気象条件(平均気温13~20°C、降雨)が続くと急激にまん延するため発病前の予防散布を行う。
- 2) 薬剤散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- 3) 薬剤散布の際は展着剤を加用し、株元にもしっかりと散布する。
- 4) 多湿条件や多肥、肥料不足は発生を助長するので排水対策を施すと同時に、適正な肥培管理に努める。
- 5) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守する。中でも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>)

